



メインプラッターを外した状態。無垢のプラスロッド構造のシャーシにサブプラッターやトーンアームをサポート。モーターは独立構造



フォノケーブル出力はDIN仕様で交換できるようになった

KUZMA STABI S COMPLETE SYSTEM III

アナログプレーヤー（トーンアーム付き）
 ・モーター電源直結タイプ＝¥698,000（税別）
 ・パワーサブライタイプ＝¥980,000（税別）※写真のモデル

Specifications

[STABI S ターンテーブル] ●サイズ:400W×140Hmm×300Dmm●本体質量:13Kg●プラッター質量:4.8kg●Tベース重量:5.5kg●モーター:24極ACシンクロナス・モーター●速度:33rpm / 45rpm●消費電力 / 電圧 / 周波数:20W / 100V / 50Hz・60Hz●Tベース、クランプ:無垢のプラス切り出し●プラッター:アルミニウム削り出し●プラッター・マット:布地とゴムの合成●サブプラッター:アルミニウム削り出し●付属品:モーター・タワー、高精度パワーサブライ、パワーサブライ専用電源ケーブル、ベルト、クランプ、本製プラットフォーム、ベアリング・オイル、リッド(ダストカバー)、アレンキー3mm、マニュアル
 [STOGI トーンアーム] ●形式:ワンポイント・オイルダンブ・インテグレートッド・トーンアーム●質量:600g●取りつけ距離:211mm●実効長:229mm●オーバーハング:18mm●適応カートリッジ質量:5g~15g●VTA調整:あり●アジマス調整:あり●バイアス調整:あり●キューイング機構:あり●チューフ・ベース上部:アルミニウム削り出し●チューフ・ベース下部:プラス削り出し●アーム・チューフ / シェル:アルミニウム削り出し●付属品:フォノケーブル1.2m、シリコン・オイル、六角ネジ、ナット各2個、アレンキー3mm、アレンキー2mm、アレンキー1.5mm、トーンアーム・プロトラクター、マニュアル●取り扱い:シーエスフィールド(株)

用して、軸受け部は炭素鋼のベアリング球の一点接触構造だ。III型ではプラスのロッドの下部からアルミのスリーブの下部が突き出している(II型では出ていない)、プラッターを支える位置を下げていくようだ。アルミのプラッターも厚みがII型の20mmからIII型では30mmに厚くなり、内部の構造も変更されているという。

モーター部はそもそも振動が少ないが、本体とは独立させ、高いSN比を確保。パワーサブライ(コントロール部は、100V仕様になり、従来機よりも低電圧に適應

できるように。メーカーの説明ではこの部分の性能が再生音を向上させる大きな要素と説明している。

トーンアームのSTOGI Sは一点支持構造で、スタティックバランスと左右方向の(アジマス)角度調整をふたつのカウンタウエイトで行う方式はII型から変化なし。ヘッドシエル部の細かい造作を含めて、すべてアルミからの削り出しパーツから構成されている。フォノケーブル(端子はDIN)は付属していない。逆に言うところ交換できる構造になったのが進化した点だ。

従来からの空間表現力に音が太くなったのが特徴

テストは本誌試聴室で行ったが、一聴して音が太くなったのが最大の魅力。II型からのS/N感の違い、空間表現力に優れた、極めて情報量の多い峻厳な音の方向性だが、さらなる安定感と音の太さが加わった。

筆者は自分のII型に上位のトーンアームである4 POINTを装着して半年ほど試用していたが、その時の雰囲気を感じてこう持っている。音の重心も低い。

アナログプレーヤー全てにあてはまることではあるが、特にクズマはセッティングを追い込んでいくほどに、新しい世界が聴こえてくる。そのポテンシャルがさらに深くなっているし、低音の安定感もある。II型のユーザーとしては嫉妬した。

さらなる低重心で安定化
 プラッターも厚みが増す

クズマはスロベニアのアナログプレーヤーのメーカーだ。東欧にはこのジャンルの製品を作っているところがいくつもあるが、その中でもハイエンドのブランドである。フランツ・クズマによって1982年に製造を始めている。

STABI S COMPLETE SYSTEM III (スタビ・エス・コンプリート・システム・スリー)を紹介するが、そのオリジナルのモデルが開発されたのは1997年に遡る。クズマにとっては最小モデルだが、アナログレコードから音楽を再生するのに、必須ではない要素を削ぎ落とした一切の妥協がない製品だ。彼らはそれを「ミニマリストック」と表現している。日本にI型が導入されたのは2010年。そして、別筐体の高精度パワーサブライを持ったのが2015年でII型として登場。筆者はこのII型のユーザーとして2年9カ月にわたってクズマと付き合ってきた。

本体はSTABI Sという名前で、直径50mmの無垢のプラスをT字型に組み合わせた構造。重量は5.5kg。プラッターの軸受け部はアルミのスリーブケースを採

シンプルな極みを追求する 第3世代を迎えたプレーヤー

1982年に当時のユーゴスラビア(現スロベニア)で、フランツ・クズマ氏によって創立されたアナログプレーヤー・メーカー。レコード再生において unnecessary な要素を全てそぎ落としたシンプルな構成のアナログプレーヤー「STABI S COMPLETE SYSTEM III」は日本のオーディオファンからも絶大な支持を得ている。そんな同モデルが第3世代へと進化を遂げた。どのようなグレードアップを果たしたのか? 自らがマークIIシリーズのユーザーである鈴木 裕氏によるレポートをお届けしよう。

Text by 鈴木 裕
 Yutaka Suzuki
 Photo by 田代法生

